

1. 蜂蜜ポップコーンはラム酒に合うか？(続き)

Rio Grande の「Oh, we'll sell us some popcorn molasses and rum」の「us」についての続きです。

Hugill の 4 番目の歌詞の 6 番は次の通りでした。

We'll sell our salt cod for molasses an' rum,

An' get back again 'fore Thanksgivin' has come.

これを読んだ木村さんから、「us は our の間違いである。Joanna C. Colcord “Songs of American Sailormen” の歌詞もそうになっている」、と。すなわち、

We'll sell our salt cod for molasses and rum,

And get home again 'fore Thanksgiving has come.

と、ほぼ同じでした。

ということで、us は our に変える方が良さそうですが、今回の定演では変えないことにします。

2. 八甲田に行ってきました

山路（やまみち）を登りながら、こう考えた。と書いたのは漱石である。今日の自分は、山道を歩きながら、歌ってた。ただしモゴモゴと。Oh, I would give you…とか、Oh, farewell to you, my Nancy…とか。数年前の遍路歩きの時もそうだった。その時の定演曲の歌詞を口ずさんでた。

今年の合唱団スキー合宿は既報の通り、慣れ親しんだ鰯ヶ沢ではなく、清里になりました。鰯ヶ沢の宿が急騰したためです。しかしパックツアーとしてほぼ同条件の八甲田は値上げしてません。その辺ちょっと気になってました。

そんな折、大学時代の山仲間八甲田を誘われました。八甲田スキー場には行ったことがなかったし、宿が酸ヶ湯温泉と聞いて、参加することにしました。この冬、テレビで豪雪の映像を何度見たことか。メンバーは3回目2回目の3人と、初めての2人、現地へは飛行機ではなく新幹線。

3月20日、朝の5時過ぎに家を出て東京駅から新青森へ、そして青森駅から酸ヶ湯温泉のお迎えバスに乗る。そして1時間、雪深い温泉宿に到着。しかし温泉はまだだ。まずは宅急便で送った荷物を解いて、スキーウェアに着替えて、軽く酸ヶ湯そばを食べて、八甲田スキー場に向かう。

午後1時ちょうど発のロープウェイに乗る、乗客は40-50人、数人が雪見観光のようだったが、残りほぼ全員がスキーかスノボを持っている。なぜかえらくゆっくりと動いている。車内アナウンスによると山頂付近強風のためだそう。通常10分ほどらしいが、15分ほどかけて到着。そして山頂駅のアナウンス「強風のため本日は1時20分発を最終便とします」とのこと、先ほどの雪見客は5分で戻らなければいけないんだ、可哀想。でも、もっと可哀想なのが、自分なのであった。

山頂駅からの下りは2コース。約5キロのフォレストコースと約3.5キロのダイレクトコース。他に、バックカントリー的なコースとして、中央ルート、宮様ルート、城が倉温泉ルートなどがある。我々はフォレストコースとした。

多くのスキー場の林間コースは、夏は道路として使われるところが多く、つまりは、狭いけど傾斜は緩いコースだ。ところがこのコース、かなり急だぞ、しかも圧雪してないのでターンしづらい。難しい箇所は横滑りで降りる。転びそうになる。逃げ道はない、なんなんだこれは。

This is the worst trip... Let us go home.

とにかく下りるしかない。時折緩い斜面があり、そこは何とかなったのが、良き思い出。

3月21日は、ガイド付きツアー。本来ならロープウェイで昨日と同じ山頂駅に行き、そこからバックカントリー的なところへ行くことになってたが、朝7時に「本日は強風でロープウェイは運休」と聞いて、ホッとする。そしてガイドツアーはミニ版となる。参加者30名ほど。

スキーに滑り止めのシール（昔はアザラシの皮で作ってたのでこう呼ばれた、いまはナイロン製）を貼り付けて、自分で登る。黙々と。そして時折歌詞をモゴモゴ。

最初は樹林の中で風も強くなかった。だんだん木が減ってきて風が強まってくる。体感温度が下がってくる。

自分のすぐ後ろが女性のガイドさんだった。「前の人の足元を見てはダメ、背中か頭を見てください、そうすれば足が前に出ます」と。

「それって合唱で後方席を見なさいと言うのとおんなじですよ。」と言ったら、彼女は「私もねぶたの囃子やります」とのことだった。「十三の砂山」はご存じだった。

歩き始めて105分後、標高1040m地点で止まる。先のガイドさんによれば、本日はもっと上まで行く予定だったが、強風のためここまで、とのこと。確かに風は強く雪混じりだ、視界も悪い。シールを外して滑り降りる準備。

まず上手な人たち、そしてボードの数人、最後に上手でない私ともう1人。恐々と滑り降りた。ちょっとだけ楽しかった。降りたのは何分間だったろうか。たぶん15分ほど。長々と準備をして、ほんのちょっと滑り降りる。タイプは悪いが、雪との遊びはなかなかだった。

定演も1年かけて練習して、本番は2時間。準備と楽しみの比率は似たようなものか。

以上文責：B2 山路永司。

